



人間の復興大学 第2号

2014年10月27日(月)(一部改訂12月13日)再発行：編集委員会

第3回講座 「CAP岩手」の活動 ～いじめ問題を中心に～

教授：高橋寿美子さん (CAP 岩手代表)

日時：2014年8月9日(土)13:30～

場所：日本基督教団 下ノ橋教会



教授：高橋 寿美子 さん

CAPとはChild Assault Preventionの頭文字で、「子どもへの暴力防止」という意味です。

暴力に対応する分野には防止・調査研究・介入・治療がありますが、CAPは調査研究を基に、暴力が起きないように、早期発見・早期対応のために活動しています。

CAP岩手は非営利の任意団体で、「いわて保健福祉基金」「日本ユニセフ協会」「子ども☆はぐくみファンド」などの助成を受けながら活動を続けて16年目です。

子ども自らが、いじめなどの様々な暴力から、自分の心と身体をまもるための「人権教育プログラム」を実施しています。

学校・幼稚園などからの依頼を受けて、「子どもワークショップ」を実施。その前に保護者や先生方、地域のおとなの方々には、暴力に対する正しい知識を持って子

も支援ができるように、「おとなワークショップ」を実施しています。

子どもだけやってほしいという要望も多いのですが、…。先生と保護者が子どもと同じ知識を持って日常に生かすために、おとなと子どもの両方の学びが大切です。

- ① “子どもへのあらゆる暴力を許さない”ことを目的として発足。
- ② 暴力とは相手の意に沿わない行為の全てである。そして“強い方”から“弱い方”へ働く行為でもある。
- ③ どのような暴力にも共通の心理的被害が伴う。安心を奪い、自由を奪い、自信を奪い、考える力を奪い、自暴自棄を生み出す。
- ④ 人権とは、安心・自信・自由が保障される権利である。いじめられる側に問題があると考え、自分をも責めることのない状況をつくり、また傍観者であってはならない。自分のことも他人のことも相談できる。
- ⑤ どうすれば助けられるのか。競争社会は加害者を作る。加害者こそが反省する必要がある。空気を読まなくてもいい。「嫌なことは嫌と言える関係」を作らねばならない。
- ⑥ 日本人は自尊感情が薄く、外的抑圧に弱い。自己肯定感もない。子どもが自信を無くしたとき、話をよく聞き、寄り添う大人がそばにいてほしい。「話してくれてありがとう、あなたを信じるよ、あなたが悪いのではない」と言ってほしい。
- ⑦ 感情を認める。選択の自由を認める。問題を抱えていてもいい。人と比べない。コミュニティを居心地のいいものにしたい。大人からの「言葉掛け」をチェックしよう！

⑧ 子どもたちに「良くここまで生きてきたね」と言わなければならない社会です。
子どもたちにCAPをプレゼントしたい！

CAP 岩手代表高橋寿美子さんの熱のこもった講演に感謝。小さな子どもたちを持つ親の皆さんに聞いてほしかった。我々としても切実な課題を与えられました。

消えた子ども、消えた老人、村八分社会、殺伐たる時代状況は、あたかも 70 年前の戦時下を思わせる。大人の生き方を問われている。

この時代、人々が歩む方向性を見失っているように思えてならない。そのような時代が過去にもあり、そのようなとき、いつも犠牲になってきたのは幼い子どもたちであった。今、またその時期ではないのか？子どもたちを守らねば……。

会員を増やしましょう。よろしく！

第4回講座 「体験からの日中友好」

教授：小山富男さん(岩手県中国帰国者
通訳奉仕会会長)

日時：2014年9月13日(土) 13:30～

場所：岩手真宗会館

中国は第二の祖国

講座の内容は、小山さんが多感な十代から二十代の満州(現・中国東北部)と建国後の中国における戦時下、日本敗戦後の捕虜生活、そして八路軍(中国人民解放軍の前身)への航空技術の技術援助など、日本に帰国するまでの18年間にわたる苦難の体験が中心で、三時間にわたって語ってくださった。

小山さんは「中国は第二の祖国であり、今日の私を培ってくれた大切な国だ」と言っ
てはばかりことがない。

昭和33年5月の帰国後は、中国からの帰国者に対する通訳奉仕会に加入し、就職が

できるように走り回るなど、中国帰国者に寄り添う活動に奮闘している。

今、日本と中国の関係は、政治的にかなり冷え込んでおり、小山さんにとって気が気ではない。それでも「中国からの帰国者、そして中国在留邦人はかけがえのない“日中のかけ橋”になっていることは確かだ。政治的な対立はあっても、草の根の友好関係を深めることで、対立の関係は必ず氷解できる」と確信している。



教授：小山 富男 さん

敗戦で捕虜収容所

小山さんが家族と一緒に満州に渡ったのは昭和15年小学五年の時で、卒業後は進学せずに、奉天(現瀋陽)にあった民間の飛行機製造会社の技術養成所に入り、主に部品づくりを担当した。しかし、日本軍の敗戦は濃厚で、米軍機B29の爆撃は激しかった。敗戦時は会社の疎開先である黒竜江省のハルビンにいた。ソ連軍の捕虜収容所に送られたが、短期間で遼寧省の西安炭坑に追い出されている。

八路軍との出会い

小山さんの心の大きな転機は、抗日戦争の中国共産党軍「八路軍」との出会いであった。八路軍は、1937年8月華北にあった軍が国民革命第八路軍と名乗って、抗日戦の最前線で戦った。(1947年に人民解放軍に

改称している。) 人民に奉仕する「三大規律・八項注意」として有名な厳格な規律によって信頼を得たことが勝利の最大原因であった。

八路軍には当時、空軍・海軍はなく、陸軍一本やりだった。抗日戦争に勝利した後、八路軍が真っ先に着手したのが空軍の創設である。小山さんが八路軍、そして中国人をより深く理解できるようになったきっかけは、敗れた日本軍の航空部隊が中国軍に協力(空軍の創設を技術援助)したこととも関係している。

中国空軍の創設に協力

敗れた日本軍人による、中国の空軍創設に対する技術援助は1949年10月1日の中華人民共和国の成立まで約三年半続いた。航空学校も開設し、最高指導者の養成まで含めて160人の学生が巣立っている。

この日本軍人による航空技術の援助の「いきさつ」は次のようであった。

日本敗戦直後の1945年10月、奉天(現瀋陽)にあった八路軍の東北民主連軍総司令部の一室で、林彪総司令(後の党副主席・国防相)、彭真総書記(後の北京市長)ら司令部の幹部が、旧関東軍航空部隊の林弥一郎部隊長と会談した。林彪らは「中国の空軍創設に協力してもらいたい」と要請した。

その際に示された条件は、①空軍が設立後には帰国できるようにする、②生命・財産は保障、③衣食住の保証——であった。

これに対し、林弥一郎部隊長は、①捕虜扱いしないこと、②生活習慣の維持、③家族の生活保障——を要求し、受諾された。

人間として生きる

敗戦時15歳の小山さんは民間人として航空学校へ配属され、八路軍との接触を深めることになった。

「私は技術のない技術者であり、刃物も満

足に研(と)げなかったが、八路軍は素晴らしい軍隊だった。軍国少年だった私は、その皮を一枚一枚はがされ、育てられた。中国共産党のこと、その指導理念、解放軍の歴史などは分からなかった。洗脳されたという意識はなく、人間として生きることにおいて育てられた、と言っても過言ではない」と振り返る。

中国側も小山さんから得た恩を忘れることはなかった。帰国から50年後の2008年、中国人民解放軍司令部政治局から招待されて北京に行き、栄誉記章を受けている。

第5回講座 「子どもが子どもらしく いられる時間を守るために」

教授：両川 いずみ さん

特定非営利活動法人「いわて子育てネット」
副理事長兼事務局長

日時：10月11日(土) 13:30～

場所：日本基督教団 内丸教会



教授：両川 いずみ さん

今の日本では子どもたちの成育環境が狭まっていることで遊びが満たされず、「これでいいのか」と警鐘を鳴らしながら、微力ながら活動を続けています。とのことで、具体的な活動の様子やお母さん方の状況などを話していただきました。

まず、盛岡市の人口や出生率の推移を中心に、子どもたちを取り巻く現状について、図表データを紹介し、「グラフから見えてくるもの」を次のようにまとめた。

人口減少／少子高齢化／出生率の低下／晩婚

化／未婚率の上昇／30歳代女性の就業率上昇
／保育施設の定員増加／待機児童の増加／世
帯人口の減少傾向 ⇒ 日本の未来が心配

この陰で子どもたちはどのように育ち、
過ごしているのでしょうか？NPOの活動
では、「数値化しにくくて形にならないよ
うなところ、行政が手を付けにくいところ、
を手がけていく。柔軟に、スピーディに！

＜いわて子育てネットの理念＞

- ・子どもの未来は社会の未来
- ・乳幼児期に育つ心と体とコミュニケーション力は
長い人生の元となる。
- ・子どもの時間を大切に。
- ・子育ての支援はまちづくりそのもの
- ・社会全体で子育て支援を

＜いわて子育てネットの活動＞

1. 通常の子育て支援活動－委託事業

(A) 子育て親子の心強い拠り所として

孤独感に苛(さいな)まれている／相談相手が
いない／子どもの育て方がわからない／子
どもとの遊び方がわからない／子どもが可
愛いと思えない→支援する「場」を設ける！

①「子育てサポートセンター」

県内の子育て支援拠点施設の中核的役割

②「盛岡市つどいの広場KOKKO」

③「盛岡市つどいの広場にっこ」

(B) 遊び場作り

子どもは遊びながら育っていく。身体をいっ
ぱい動かそう！お友達をいっぱい作ろう！

④「ちびっこジム JUMP」

幼児用の室内用運動遊び場。震災後、企業の
寄付で設置。今は盛岡市の委託事業に。ここ
を根拠地に沿岸12市町村に出掛けている。

2. 通常の子育て支援活動－自主事業

(C) 自然遊び・外遊びをしよう

⑤「パパとキッズの森遊びクラブ」

⑥「森のようちえん」(於：馬っこパーク、 岩手大学植物園、つどいの森)

(D) 入園支援、幼児一時預かり、病児預か

り、産前産後支援、など…以下割愛。

3. 東日本大震災の緊急支援・復興支援

……大震災が「子どもたちの育ち」にどんな影響
を与えてきているか？調査し対策を！

⑦新生児とその母親受け入れ支援事業

⑧乳幼児家庭支援

⑨子育て支援機能の復興支援

⑩子どもの遊び復興支援事業

(沿岸12市町村28回)

「今まで日常的に『子育て支援』を続け
てきたことにより、『3・11の被災支援』
に、直ぐ、組織的に対応することができた。
普段の活動が重要であることを思い知らさ
れた」と両川さんは感慨深く語られた。

----- 次回の「講座」は11月8日(土)13:30～

教授：濱塚 有史 さん

NPO盛岡YMCA主事

演題：「YMCA運動とNPO、NGO」

(会場：下ノ橋教会)

(以降の予定).....

第7回「講座」12月13日(土)13:30～

教授：加藤隆男さん

岩手県ボランティア団体連絡協議会会長

演題：「ボランティアの独り言」

(会場：岩手真宗会館)

第8回「講座」1月10日(土)13:30～

教授：村上淑子さん

淵澤能恵を顕彰する会会長

演題：「淵澤能恵…

韓国女子教育の礎を築いた人」

(会場：岩手真宗会館)

「人間の復興大学」本部：

岩手真宗会館内

「会報」発行：編集委員会

電話：019-635-9161

住所：盛岡市東仙北二丁目2-45

URL <http://re-human.net>

※ 皆様からの感想やご意見をお待ちしています。